皇學館

学園報 第48号　発行・編集／学校法人皇學館 企画部 TEL：0596-22-6496・8600

●大学　大学院・専攻科・文学部・教育学部・現代日本社会学部
〒516-8555　三重県伊勢市神田久志本町1704
TEL：0596-22-0201（代表）　FAX：0596-27-1704

●高等学校・中学校　三重県伊勢市楠部町138
［高校］〒516-8577　TEL：0596-22-0205（代表）
［中学］〒516-8588　TEL：0596-23-1398（代表）

■注目記事

1面
平成２６年
学長年頭講話
2面
鈴木重胤先生150年祭を斎行
藤原正彦特別招聘教授が講演
3面
学内で合同企業説明会を開催
平成２５年度就職内定状況
4面
大学・就職内定者ＶＯＩＣＥ
5面
高中・卒業生随想
6面（高校・中学校）
月次参拝、学校見学会 ほか
7面
岡田重精元理事長の
「偲ぶ会」に 100 余名
8面
農業大学校と連携協定を締結
前田ゼミ作品が全国３位

■連載

2面
リレーエッセイ
伊藤素子（学生寮管理栄養士）
8面
皇學館ミュージアム
神宮式年遷宮御装束裂帖

平成二十六年　学長年頭講話
崇敬と感謝の念を新たに

一月九日、学長による新年恒例の年頭講話が厳かに行われた。この日は新成人となる二年生を中心に約百名が記念講堂に会し、真剣な面持ちで学長の話に聞き入った。

静かに、そして力強く語りかける清水学長

伊勢は特別な場所

毎年、日本を導いてきた先人達の言葉を引用して語られる清水潔学長の年頭講話。今年は第六十二回式年遷宮の直後ということもあり、本学の学生と教職員らが一丸となって遷宮に奉賛できたことに対する感謝の言葉から始まった。

次に幕末の越前の歌人、橘曙覧（たちばなのあけみ）が文久元年（一八六一）に伊勢神宮に参拝した様子を綴った旅日記「榊の薫」を紹介。『まうづる人のありさま見わたすに、たれもたれも、足のふみどもあらじげに、かたちをすぼめ息もしあへず、ひたぶるに地にひたひをすりつけをがむ』という一節を朗読し「文久元年は遷宮の年ではない。しかし身動きもできないほど大勢の人が正殿の前にひれ伏し、頭を地につけて息を潜めて拝んだと記されるほど、江戸時代、幕末期の人々は伊勢に対して特別に敬虔な信仰を抱いていた」と解説した。

また江戸時代に全国的なブームとなった「西国三十三カ所観音巡礼」が紀伊の那智山如意輪堂（現・青岸渡寺）から始まる理由について「最初に伊勢神宮で旅の安全を祈願してから巡礼に向かったため、伊勢から最も近い那智山が一番の札所になったのではないか」との説を披露。伊勢が日本人にとっていかに特別な所であったかを説いた。

さらに学長は、伊勢神宮への信仰の特質は以下の三点に集約されると解説した。

一．国民的普遍性（特定の氏族や地域・職業の人々が奉る神ではなく、すべての日本人の総氏神であること）

二．祭祀伝統の純粋性（他の宗教と習合せず、早く習合が進んだ奈良時代から固有の神道祭祀の伝統が保たれてきたこと）

三．神宮参拝の祈願（個人的な幸福を願うのではなく、君が代の永遠が祈られてきたこと）

最後に学長は平安末期の歌数首を紹介し、「中でも三番目の『天皇の御代の長久を祈る』ことは、君国の弥栄を祈ることであり、これこそが伊勢神宮に奉る信仰の本質である」と結び、新たな神宮の二十年期に人生の最も大切な時期を過ごす新成人への餞の言葉とした。

六七〇名が新成人に
◆学内成人式を開催

学長年頭講話に続き、倉陵会館において本学恒例の「学内成人式」が盛大に開催された。この学内成人式は本学が再興された昭和三十年代後半、遠方から本学へと学びに来ていた学生が、故郷の成人式に出席できないことを気の毒に思って始められたという。今年対象となるのは、六七〇名の学生だ。

挨拶に立った清水潔学長は「成人になるということは『立志』、つまり志を立てるということ。社会のため、国のために自分は何を為すべきか、どんな存在に成るべきかをしっかり考え、深く心に刻んでほしい」と祝辞を述べるとともに、人生の大きな節目を迎えた新成人にエールを送った。

続いて新成人を代表し神道学科二年の桑原和瑳君が「皆様からいただいた慈悲深い心を胸に刻み、社会という大海原に船出したい」と謝辞を述べ、「いつの日か顧みて、よくぞ歩いてきたと思える人生を歩みたい」と決意を誓った。

ジュースで乾杯した後は、学長や先生方を交えての立食パーティに。中締めでは元塚敏彦准教授が壇上に立ち、自分の年齢を三で割った数字が、人生を一日に見立てた時の時間に該当するという計算式を披露。「皆さんは二十歳だから、三で割ると六と三分の二、つまり一日の中でまだ午前六時四十分ということ。ようやく一日が始まる時間。そろそろ、皆さんがどんな人間として人生の一日を過ごすかを考えてほしい」とメッセージを贈り、会場の全員が感慨深げに話しに聞き入った。

学内成人式出席の記念品を受け取り笑顔の学生たち

成人式に参加したコミュニケーション学科二年の田端知佳さんは「ここまで育ててもらった両親と周囲の人に心から感謝している。今日から、その気持ちを返せる人になりたい」と語った。教育学科二年の荒木絢香さんは「人の気持ちをしっかり思いやり、譲るべきことは譲り、主張すべきことは主張できる大人になりたい」と決意を述べた。

最後に新成人は、保護者会である尊の会が用意した記念品を手渡され、記念すべき一日が静かに幕を閉じた。

清水学長の祝辞に、神妙な表情で耳を傾ける新成人

四十七号で報じた通り、現在大学では、文部科学省が実施する、「私立大学等教育研究活性化設備整備事業」の支援対象校に採択されたことを受け、以下の二事業の始動に向けた準備が整いつつある。

①タイプ１（大学教育質転換型）
「ラーニングコモンズ」を図書館内に整備し、アクティブ・ラーニングを推進

②タイプ２（地域特色型）
「大学生テレビ局」を九号館に整備

①は学生の主体的・協働的学修を支援する機能とハイブリッドライブラリー機能を融合・強化し、タブレットＰＣ等を活用したアクティブ・ラーニングを推進する取組み。附属図書館内の知的コミュニケーション空間「ラーニングコモンズ」と一体的に整備する。これにより、学生の情報収集能力やコミュニケーション能力・プレゼンテーション能力の向上などさまざまな教育効果が期待できる。現在、図書館二階の書籍移動作業、学内無線ＬＡＮ環境整備などが始まっている。

②は地元の企業・自治体と連携し、学生が教員やテレビプロデューサー指導のもと新たな視点で地域の魅力を発見・取材し発信することで、「ポスト遷宮」という地域の課題に応える実践の場として活動していく。学生は番組制作を通して創造的思考やチームワークを磨けるほか、地域の活性化にも貢献できる。

両事業とも三月下旬から運営を開始する予定だ。

詳細は運営開始後にお伝えする。

地域と連携した中核的職業人養成教育を促進

春秋　倉田山

東日本大震災から三年が経とうとしている。あのとき、多くの人々がパニックにならず整然と救援物資を受け取る様子が話題になった。この振る舞いを当世風にいえば「おとな」である▼「おとな」は新明解国語辞典第五版に「一人前に成人した人。［自覚・自活能力も持ち、社会の裏表も少しずつ分かりかけて来た意味で言う］」とある。ただし、この意味になったのは近代以降で、それまでは組織や氏族の長をさすことが多かった▼派生した形容詞「おとなしい」は自己主張を是とする現代ではマイナス要素として捉えられるが、かつては美徳とされた▼イギリスの国際文化交流機関ブリティッシュ・カウンシルが、今後二十年にわたって欠かせない十の言語に日本語を含めたという（平成二十五年十一月二十六日　日経）。もっとも、その前提として日本の経済が安定的であることや、知られている語彙ではキモノ、サムライ、ゲイシャ、カミカゼであったというから見方は相変わらずだ▼これからは経済力（カネ）や技術力（モノ）だけでなく、日本の品質（オトナ）を世界に理解してもらえるグローバル化をめざしたい。

鈴木重胤先生百五十年祭を斎行

幕末の国学者・鈴木重胤先生が歿せられてから百五十年にあたる平成二十五年、本学記念館において「鈴木重胤先生百五十年祭」が執り行われた。祭典には神社関係者などおよそ三十名が参列し、先生のご遺徳を偲んだ。

本学記念館で行われた鈴木重胤先生百五十年祭にて

鈴木重胤先生に関する貴重な資料が数多く展示された

平成二十五年十一月三十日、本学記念館において「鈴木重胤先生百五十年祭」が執り行われた。重胤先生は幕末の国難迫り来る中、『日本書紀伝』で国体の尊厳と敬神愛国の精神を説かれた国学者である。本学では重胤先生が文久三年(一八六三)に歿せられてから百年後にあたる昭和三十八年十月に故谷省吾元学長が中心となって百年祭を開催している。昨年は没後百五十年にあたり、重胤先生のご遺徳を偲び改めてご事績に学ぶことを目的に周年祭を挙行した。

当日は佐古一洌理事長をはじめ、遠方よりお越しの神社関係者の皆様も含め約三十名が出席。百五十年祭は四部構成で行われ、第一部では祭主を松本丘教授、祭員を本学祭式研究部学生二名、典儀を木村徳宏助教が務め、厳かな雰囲気の中で式典が斎行された。式典では佐古理事長、清水潔学長、伴五十嗣郎名誉教授、加茂正典教授によりそれぞれ代表玉串奉奠が行われた。

故谷省吾元学長所蔵の資料も展示された

続いて行われた第二部では佐古理事長及び清水学長による挨拶の後、まず加茂教授が「鈴木重胤先生の事績」と題して講演。精細な考証を特徴とするその研究成果について「皇大御典」「神御典」研究と「神典」研究とに分け、わかりやすく説明された。次に「鈴木重胤先生の神典研究について」と題し、伴名誉教授から神典研究の詳細な内容について解説がなされた。

第三部では、「重胤先生遺著展覧会」が開催され、吉崎久本学附属図書館事務長による展示解説の後、茶室に並べられた重胤先生に関する資料の展覧が行われた。資料の中には重胤先生の百年祭を執り行った故谷省吾元学長所蔵の資料も展示され、参加者からは、「貴重な物を見ることができた」との声も多く聞かれた。

第四部においては直会が行われ、参加された方々は重胤先生を偲びながら和やかなひとときを過ごされた。

皇學館高校創立五十周年・皇學館中学校創立三十五周年「記念特別講座」

「日本の情緒力を世界へ」

―― 藤原正彦特別招聘教授が講演 ――

力強く高校生にエールを送る藤原教授

昨年十二月七日、皇學館高校創立五十周年・皇學館中学校創立三十五周年を記念して、御茶の水女子大学名誉教授であり本学特別招聘教授でもある藤原正彦先生が「二十一世紀を担う君たちへ」と題し特別講座を開いた。本高校での講座は約十年ぶり。

冒頭で藤原教授は「高校生に大切なことは、論理的思考、知識、そして情緒力」と語り、中でも情緒力の大切さを強調した。「どれだけ正しい知識で正しい論理を展開しても、前提が違えば意味がない。その正しい前提を導くために情緒力が必要」と説いた。

藤原教授によれば、情緒力とは〈懐かしさや「もののあわれ」を感じ、美しいものを美しいと思える感性〉のこと。教授は日本人が虫の音や散る花に美を感じる世界でも数少ない国民であり、きわめて情緒力の高い民族であることに触れ、「その結果、源氏物語を筆頭とする『文学』や、フランス印象派の画家に影響を与えた浮世絵などの『芸術』、江戸時代の関孝和に代表される『数学』など、世界に誇るべき優れた学問が醸成された」と指摘した。そして情緒力の本質を、新渡戸稲造の言葉を引用して「惻隠の情(そくいんのじょう)」(相手を思いやる心)と説明。

会場に集まった三六二名の高校一年生に向け、「将来、君たちが中心となって『惻隠』の心を世界に広めてほしい」とメッセージを贈り、会場は大きな拍手に包まれた。

聴講した皇學館高校一年の中村光希くんは「先生は知識と情緒力、弱者への涙を忘れてはいけないこと。そして、その三つを持った上で野心を抱き、能力を全開にして楽観的に過ごすようメッセージを贈ってくださった。僕はこの自然豊かな伊勢の地で先生がおっしゃった三つのことを最大限に自身に取り込み、世界へ羽ばたいていきたい」と語った。また、同一年の久村理沙子さんは「一見無駄に見えることも、情緒力を磨くために必要だという言葉が印象に残った。ほかにも、これから私が生きていく上でヒントになる話がたくさんあり、本当にいい機会だったと思う」と述べた。これから長い人生を歩む上で、この講演は彼らの大きな道標になるに違いない。

藤原教授の言葉に、真剣に耳を傾ける高校生たち

リレーエッセイ

「ご馳走さま」に励まされ

学生寮管理栄養士　**伊藤素子**

昭和四十五年四月一日より皇學館大学の事務職を拝命。栄養士の資格を持つため、おもに学生寮の栄養士として給食業務を担当することになりました。お陰様で食中毒を出して世間をお騒がせすることもなく、今日に至るまで四十四年の長きにわたり奉職させていただいたことは、私自身唯一の誇りでもあります。

各寮の今昔の思い出は枚挙に暇がありません。

当初、精華寮南寮の厨房は食器洗浄機もない！オーブンもない！蒸し器もない！のないないづくしでの食事づくりでした。昭和六十一年の精華寮北寮の増築竣工を機に新しくなった厨房にはそれまでなかったものがおおむね整備され、加えて大型のレンジ、殺菌(包丁・まな板)庫、給湯器等設備が拡充改善されました。衛生面を重視しながら合理的で快適な調理作業ができることに今も感謝の毎日です。

貞明寮の歴史も紆余曲折でそれは大変でした。勤め始めの頃は、大藪寮(旧病院)や旅館の一部を拝借していた引本寮に給食を提供。市内循環バスに揺られて献立を届けに行ったことが懐かしく思い出されます。

給食数は過去で一番多い時には精華・貞明寮合計で五百名を超えていた時期がありました。メニューも手作り感を尊重しながら栄養のバランスと嗜好、バラエティーの多さに配慮。因みに冷凍食品使用第一号は今でも時々登場するヤヨイの〝南瓜の挽き肉フライ〟です。

食事に関連した寮全体の年間行事も昔は四月の新入生歓迎会に始まり、五月の参拝見学、六月の寮祭とほぼ毎月にわたってありました。今は親から子、孫と入寮の方ありで、出寮や卒業後に来寮され、元気でご活躍の様子を伺うにつけ何より嬉しく思います。

精華寮で食事を終えた皆さんにシンクの入口で「ご馳走さまでした」と呼びかけられると、必ず私も「はいどうも」とラ音階で皆さんに負けない大きな声で応答しました。皆さんの快活な声に厨房の職員は励まされました。四十四年間の歳月で何百回、何千回、いや何万回交わしたことでしょうか？

〈食事〉とは〈人を良くする事〉と書きます。食事を通して同じ釜の飯をいただいたご縁と心の絆を大切に、寮での貴重な経験をこれからの人生に存分に生かして下さい。

『食事終え　鸚鵡(おうむ)返しの　言の葉は
一期一会の　心の絆』

県内優良企業20社が合同で説明会を開催

十二月四日、県内の優良企業二十社による学内合同企業説明会が開催され、今年度の三年生七〇九名のうち、企業就職を希望する約二百三十名が出席。企業担当者の説明に真剣な顔で聞き入った。

就職希望の二百三十名が参加

この合同企業説明会は百五銀行との教育連携事業の一環として行われたもので、今回で二回目となる。

参画した二十社はいずれも三重県下に本社・事業所を有する優良企業で、業態も食品や情報、エネルギー、住宅、金融、ホテルとさまざま。二三一教室で行われた第一部では、宮川泰夫就職担当学部長の挨拶に続き、各企業が四分間の自社プレゼンテーションを行った。第二部は倉陵会館の食堂に移動。学生は第一部で興味を持った企業の個別ブースを訪れ、一回につき二十五分間、担当者からより詳しい企業説明を聞き、疑問に思うことを熱心に質問していた。これが三回繰り返され、学生は最大で三社を訪れ、効率的に企業情報の収集を行うことができた。

人気企業には立ち見が出るほど多くの学生が集まった

出展企業名（50音順）

株式会社　赤福
株式会社　アイティービー
朝日ガスエナジー　株式会社
アサヒグローバル　株式会社
イセット　株式会社
岡三証券　株式会社
株式会社　ぎゅーとら
株式会社　サイネックス
株式会社　鈴鹿英数学院
住友電装　株式会社
株式会社　津松菱
東海物産　株式会社
鳥羽シーサイドホテル　株式会社
トヨタカローラ三重　株式会社
ネッツトヨタノヴェル三重　株式会社
株式会社　百五銀行
株式会社　ホーペック
三重交通　株式会社
三重ダイハツ販売　株式会社
株式会社　山口工務店

企業と学生、ともに手応え

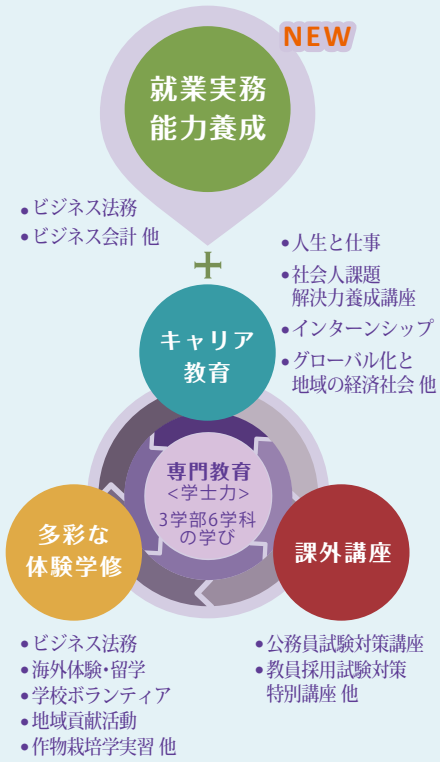
参加した学生からの反応は良好で、「どの企業も、その会社にしかない魅力があることを知った」（国文学科男子）、「実際の説明会の雰囲気を体験でき、これからの自信につながると思う」（国史学科男子）、「インターネットを見ればどんな情報も得られると思っていたが、実際に話をしないと分からない情報も多く、とてもためになった」（教育学科女子）と手応えを感じた様子であった。

また、参加した企業からも好評で、終了後のアンケートでは二十社のうち十二社から「たいへん良かった」、八社から「良かった」と評価を受けた。また十六社が「次年度も参加したい」と意向を示した。ほかにも「学生が非常に熱心に聴いており、嬉しく思った」「真面目で素直な学生が多く、ぜひ来年も参加したい」「学生の熱意が感じられる企画で、楽しませてもらった」「非常に有意義な時間を過ごせた」と概ね高い評価であった。一方で、一部の企業から「全体的に（学生から）もっと質問があっても良かった」「企業を知ってから訪問先を考えてほしい」という厳しい意見があったことも事実である。

この合同企業説明会は来年も開催される予定。

職業人育成の新プログラムがスタート

キャリア・コンパス・プログラム



社会のさまざまな分野で中心的な役割を担う中核的職業人を育成するための本学独自の取組み「キャリア・コンパス・プログラム」が平成二十六年度より開始される。従来、公務員や教員に関して高い就職・採用実績を誇る本学が、同プログラムによりこれまで以上に有名・優良企業への就職者数の増加をめざす。

ここでは従来の専門教育やキャリア教育、アクティブ・ラーニング（体験学習）の充実に加え、今年度から新たに一・二年生を対象に「職業実務能力」養成カリキュラムを開始。今日、あらゆる資格やビジネスの基礎ともいえる「ビジネス会計学」「ビジネス法律学」などを徹底して学び、簿記二級やファイナンシャルプランナー三級、ビジネス実務法務検定二級と同レベルの実務能力を習得。知識や資格を保持するだけでなく、ビジネスの現場で「使いこなす」実践力を育成する。

その蓄積の上に就職支援担当の手厚いサポート、三年次からの有名専門学校による課外講座を活用し、すべての学生の夢実現へと導いていく。

内定状況は若干上向き

平成二十五年度卒業生就職内定状況

年明けに平成二十五年度卒業生の就職内定状況が判明した。昨今の景気回復基調の中で企業の採用意欲も徐々に高まりを見せたことにより、昨年同時期と比較すると内定状況は若干上向いてきている。

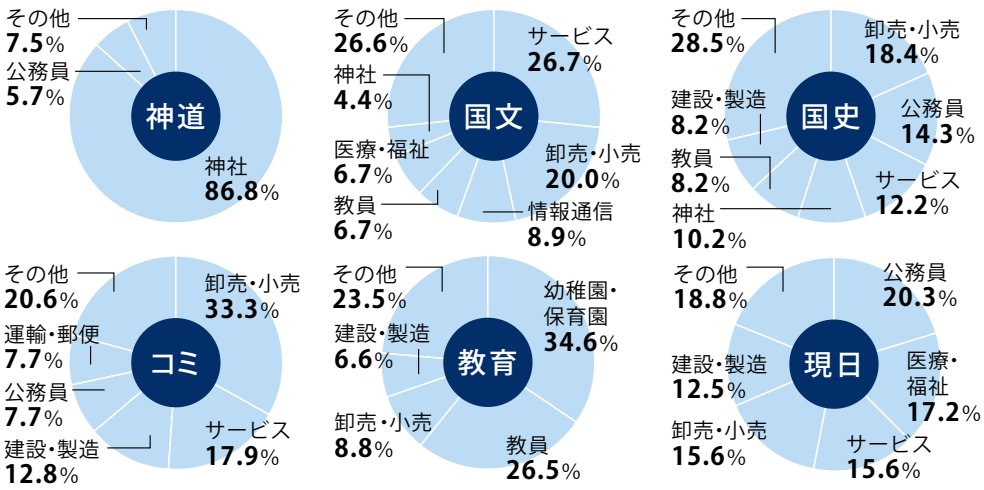
昨年十二月末の集計では、全就職希望者数の内定率は五八・一パーセント。しかしこの数字には教員専願者（次年度の教員採用試験に再挑戦するため、現在就職活動を停止している学生）が含まれている。そこで、より実態に近い数字を出すため教員専願者を除くと内定率は七一・四パーセントとなり、昨年同時期の六八・〇パーセントから三ポイント以上も上昇している。

現代日本社会学科第一期生が健闘

続いて学科別内定者の業種内訳は下記の円グラフの通り。特筆すべきは、今年度初めて卒業生を輩出する現代日本社会学科が大健闘したこと。内定者の五名に一名が公務員試験に合格という実績は、同学科の「日本を動かす人を育てる」というスローガンを象徴しているといえよう。ほか、神道学科と教育学科はそれぞれの専門性を活かした就職を実現していることが顕著にうかがえる。国文学科・国史学科・コミュニケーション学科で卸売り・小売業とサービス業が強いのは、人文学系学科の全国的な特徴だ。加えて、コミュニケーション学科の三名に一名が卸売・小売業で内定が出ているのは、同科のコミュニケーション教育の成果といえる。

この先も、本学では学生一人ひとりが志望する分野に進むことができるよう、最後まで支援していく。

学科別内定分野　平成26年1月8日現在



皇室への認識新たに

所功特別招聘教授が講演

皇室研究の第一人者である所功本学特別招聘教授の講義が昨年十二月十七日、神道学科専門科目「皇室概説」の特別授業として行われ、通常の受講学生のほか、教員や聴講希望者など約百名が受講した。

講義の中で所教授は、宮中で日々行われている天皇陛下の祭祀について詳しく解説し、つねに国民と共に歩まれている皇室の御精神がこの祭祀に象徴されていると述べた。また、現在も続けられている本学学生有志による皇居勤労奉仕を一番最初に引率したのは、当時助教授として本学に在職中だった所教授自身であったとのエピソードを披露。ほかに、江戸時代のお伊勢参りでは犬も人々の助けを借りて参宮を果たしていたことなど多彩な話題を論じ、聴講者は熱心に聞き入っていた。皇室と神道・神社、皇室と本学の縁りについて認識を新たにする恰好の機会となった。

皇室と本学との関わりについて熱く語る所教授

皇學館大学
就職内定者VOICE

景気の回復とともに、少しずつ就職環境も好転しつつある今日この頃。本学には４年生たちから嬉しい便りが続々届いている。
そこで、無事に内定・合格を勝ち取った彼らに、就職活動や試験勉強のポイントを語ってもらった。

成功のポイントは、神職養成部の活用でした

神道学科　**坂口智紀**

内定先：**橿原神宮**

１年の年末年始に神社奉仕に行ったとき、私と同じ神社関係出身でない若い神職さんの話を聞き、神社界に奉職したいと思うようになりました。その後、神職養成部を通して神務実習や神社奉仕などに参加させていただきました。就職を意識する４年になってからは神職養成部へ本格的に出入するようになり、履歴書をはじめとする書類の書き方や面接指導、採用試験の傾向や対策についても懇切丁寧に教えていただきました。特に私は採用試験の小論文に不安を感じていたため、添削指導が勉強になりました。

私が橿原神宮に奉職できたポイントは、日頃から神職養成部にこまめに顔を出し、先輩方が記した採用試験報告書や神社情報などを上手に活用したことだと思います。もちろん実際に神社の境内で、神務実習や神社奉仕に参加できたことも大きかったのですが、それよりも私たち一人ひとりの適性や状況に合わせてアドバイスをいただいたことがとても役に立ちました。

マスコミ就職対策講座の先生のおかげです

国文学科　**坂本陽祐**

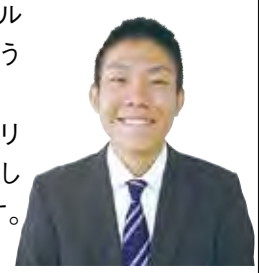
内定先：**伊勢新聞社**

３年の夏休みにマスコミ就職対策講座があると聞き、面白そうだと思って参加してみました。ここで記事の読み方や考え方、文章の書き方などを指導していただくうちに、新聞社の仕事に興味がわいてきました。

就職活動で最も私を支えてくれたのは、マスコミ講座の先生の存在でした。私の考えが間違っていたら、はっきり「それは違うよ」と指摘していただき、就職やマスコミに対する見方、意識が変わりました。先生からは、記者としてだけでなく、一人の人間としての心構えも学ばせていただいたと思っています。

試験対策は、マスコミや新聞社用の市販の問題集と漢字集を何度も繰り返しました。またマスコミ業界の就職活動は知識だけではダメで、たとえば面接で相手の気持ちを察してすぐに対応できたのは、接客業のアルバイト経験が役に立ったように思います。

目標は、８年後の東京オリンピックの現場で、記者として報道の仕事をすることです。



絶対に警察官になると信じ続けていました

国史学科　**羽柴良子**

内定先：**三重県警察**

最初は先生になろうと思っていましたが、やがて子どもに「教える」ことと同じくらい子どもが安心して学ぶ環境を「守る」ことも大切だと気づき、警察官を志望しました。

私が一番お世話になったのは就職支援室。履歴書の書き方から面接まで、あらゆることを教えていただきました。警察官採用試験に向けては、大原学園の公務員夏期集中講座と、秋のレギュラーコースを受講。試験の前までに過去問題を３度は繰り返して勉強しました。面接対策には自分で想定質問とその回答例を作り、それを持って就職支援室で何度も面接の練習をさせてもらいました。

しかし公務員試験の本番と、私の教育実習の日程がほぼ重なってしまい、その数日間は目が回るほど忙しい時期でした。それでも私が公務員試験に合格できたのは、「警察官になる」と心から信じ、夢を持ち続けたからだと思います。将来は地域の人と信頼関係で結ばれた警察官になりたいと思います。

先輩の報告書を見て、勉強方法を工夫しました

コミュニケーション学科　**土口ふみ**

内定先：**三重県**（中学校英語教員）

子どもの頃から先生に憧れ、２年の時に教員採用試験の説明を聞き、はっきりと中学校の英語科教員になろうと決めました。その後は教職支援室にストックされた先輩方の報告書などを参考にして、教員採用試験に関する講座を受講し、合格者の体験報告会に参加するなど、自分なりに勉強方法を工夫しました。また私が３年の時、先輩の集団討論や模擬面接を見学させていただき、面接の心構えができたことも役に立ったと思います。

さらに、知識だけではなく、社会人としての将来を見据えて、マナーの勉強ができる「ソーシャルスキル」などの勉強にも力を入れました。学内で受験できる「マナー・プロトコール検定」の資格を取得したことは、私の大きな自信です。また「表現演習」など、コミュニケーション学科の専門の授業を通して、相手を理解し、自分の意見をきちんと伝える力を養えたことが、自己ＰＲを考える上でとても役に立ちました。

友達と一緒に頑張ったから合格できました

教育学科　**石谷将大**

内定先：**愛知県**（小学校教員）

もともと小学校の先生に憧れていましたが、大学で教育実習を経験したことで「やはり自分は教師になるんだ」という確固たる気持ちを持つことができました。

教職支援室に本格的に行き始めたのは４年になってから。集団面接や集団討論、個人面接、論作文指導などに積極的に参加しました。教職支援室に行くようになって良かったのは、教員をめざす他学部の友達がたくさんできたこと。そんな友達と助け合い、支えあったことで、前向きに勉強に取り組む意欲が生まれました。また友達同士で面接の練習も行いました。友達同士の練習では、話す内容よりも「どのように話せば聞き取りやすいか」、「どうアピールすれば子どもの注目を集められるか」などについて、聞き手の立場で意見を出し合い、とても参考になりました。

将来は、常に子どもの目線で考え、たくさんの喜びや楽しさを共有できるような教師になりたいと考えています。

最後までぶれない「志」が、大きな自信になりました

現代日本社会学科　**中林紗矢佳**

内定先：**三重県庁**（行政職）

大学の「地域社会研究会」の活動の中で、「全国まちづくりカレッジ」の企画・運営でコーディネーターをしておられた県職員の方に出会い、その方に憧れて、公務員をめざそうと思いました。

本格的に公務員試験のための勉強を始めたのは、２年の５月から。大原学園の公務員試験対策講座の専門講座を受講し、翌年に専門と教養の講座を受講しました。

一次試験の前には、講師の方に電話やメールで質問に答えていただき、とても助かりました。二次試験の時は、就職支援室の方に個別面接に向けた指導をしていただきました。

私は現代日本社会学科の先生から、「自分のミッションステートメント（志）を持って生きる」ことが大切だと教わりました。「三重県民のために働きたい」というミッションステートメントをいつも胸に持ち、最後までぶれずに就職活動を続けられたことが、面接などでの大きな自信につながりました。

皇學館高校 皇學館中学校 卒業生随想

巣立ちの春――今年、皇學館高校は３４６名、皇學館中学校は５２名の生徒が卒業を迎える予定だ。希望に胸を膨らませた入学式、友だちと絆を深めた学校行事、目標に向かって学業やクラブに励んだ３年間……彼らの思いをつづったメッセージを紹介する。

皇 學 館 高 校

有意義な３年間

3年8組　山 口　嵐

卒業まで長い道のりだと思っていた入学当初でしたが、実際にはあっという間に３年間が過ぎて行きました。

２年生になり、総務委員長を務めさせて頂き、皇學館高校の良い所、悪い所の両方を垣間見る事ができました。生徒代表として思うようにいかず、悔しい思いをした事もあります。しかし、先生方のご理解と全校生徒のご協力のもと、一致団結し、目的を達成する事ができました。こうした事を通じてリーダーシップの難しさに改めて気づかされました。

そして、これらの経験が私の今後において非常に有益なものになると信じています。

また、この３年間は私自身の不甲斐なさや至らない点に気づく事ができた３年間でもあります。困った時は、周りの友人たち、先生方、そして家族に助けて頂きました。皆さんの支え無しには、高校生活を謳歌する事はできなかったと思います。これからもその感謝の気持ちを忘れずに未来へ向かって頑張ります。

たくさんの出会いに〝ありがとう〟

3年6組　西 山 知 穂

高校の３年間というものは終わってみるととても短かったように感じます。しかし、その内容は濃く決して忘れることのない出来事ばかりでした。

高校３年間とは大人になるためにさまざまな経験をする時期だと思います。勉強だけではなく、クラスやクラブ活動、校友会活動などを通じて私は本当に多くの人に出会いました。そして、彼らと話すことで自分の考え方や物事の見方が変わったと思います。もちろん、ぶつかり合うことも多く、泣いてしまうこともありました。途中で投げ出したい時や逃げ出したい時もありましたが、家族や友人、先生方が共に悩み私を支えてくれました。

ここへ来て、誇れる先輩、友人、後輩、そして新しい自分と出会うことができました。皇學館高校に来て本当によかったと思っています。

家族や友人、先生方はもちろん、すべての人に対する感謝の気持ちを忘れず、夢に向かって真っ直ぐ進み続けます。今まで本当にありがとうございました。

贈る言葉　「清明正直」の精神で生き抜いて

高校第３学年主任　吉 川 太 郎

卒業おめでとうございます。

３年前の春、まだ幼くあどけない表情の君たちと初めて出会ってからはや３年が経ちました。出会った頃はよく落ち着きがないと（とくに男子に）注意したことを覚えています（笑）。それが今では大人っぽくしっかりとした顔つきに変わり、落ち着いた行動もとれるようになったと実感しています。

クラスがひとつになって取り組んだクラスマッチ・体育大会・皇高祭、笑顔が絶えなかった北海道への修学旅行、志望大学合格のため必死に取り組んだ受験勉強など、君たちは私たち担任団にたくさんの思い出を残してくれました。

しかしこれからはそれぞれの道へ巣立って行きます。この皇學館高校で学んだ「清明正直」の精神をもってすれば、厳しい世の中も生き抜いていけると確信しています。

私たち担任団は、皆さんのさらなる成長を期待し、応援しています。

皇 學 館 中 学 校

皆と協力して得た〝達成感〟が宝物

3年A組　佐々木　星

私が３年間で一番よかったと思うことは、校友会の本部役員を務めたことです。

正直言って、私は小学生の頃から学校があまり好きではありませんでした。中学生になってからも学校行事の意義が十分理解できてはいなかったように思います。ところが、２年生になって校友会選挙で当選してからは学校行事にただ参加するのではなく、企画･運営する側に立ち、かなり見方が変わりました。

校友会役員は人前で目立つ仕事をする生徒だとばかり思っていましたが、実際はそうではなく、むしろ裏方で働いていることの方が多いのです。とても忙しい日々を送りながらも、その忙しさは私にとってかえって楽しく､充実した時間に感じられました。皇中祭では全校生徒の前で歌うために仲間たちと一緒に何度も練習を重ねました。

３年間を通して３年生としての一年間が最も楽しく充実していたように思います。一つのことに集中し、皆で協力して得たこの達成感は私にとってかけがえのない宝物です。

感謝の気持ちを忘れず、いつか恩返しを

3年B組　高 山 大 雅

中学校で過ごした３年間を振り返ってみてまず頭に思い浮かぶのは、クラスの仲間たちのことです。ともに泣き、笑った体育大会。先輩たちを乗り越えて優勝するんだという１、２年生と、最高学年としての意地にかけて、後輩たちに優勝は譲れないという自分たち３年生。全校生徒が「優勝」という一つの目標に向け、汗だくになりながら各自の役割を果たしている姿を見て、心打たれる瞬間もありました。どのクラスも闘争心を燃やし、団結している様子に充実感を覚えました。

秋の皇中祭ではクラス企画の当日、教室に来られたお客さん方の笑顔。あの笑顔を見て、「頑張ってよかった」と思いました。もちろんこうした行事に限らず、日々の学校生活を送ることができたのは、自分自身の力だけではありません。毎日、朝早くから起きて見送ってくれる家族。学校で話を聞いてくれたり、笑わせてくれたりする友だちや先輩・後輩。そして優しく、ときに厳しく指導してくださった先生方のおかげです。そうした感謝の気持ちを忘れずに、いつの日か必ず自分なりの「恩返し」をしたいと強く思っています。

贈る言葉　共有してきた「時間」を大切に

中学校第３学年主任　安 道 里 巳

いよいよ卒業の時が近づき、校内でも様々な場面で先輩から後輩へと「襷」がつながれています。

昨年末、校友会で新役員が選出され、それに伴う旧本部役員による退任の挨拶がありました。３年生の諸君が次々とスピーチで会場のセミナーホールを沸かせる様子を見て、彼らの成長ぶりに目を見張る思いがしました。

この３年間を振り返れば、「部活動や勉強で逃げ出したくなった」「体育大会や皇中祭で友だちと衝突し、なぜ物事が自分の望むように進まないのか、腹立たしく思った」など、そうした経験はおそらく一度や二度ではなかったはずです。しかし、不満や葛藤を抱えながらも、なお自分の「理想」に向かい、一途に進んでいくことができる、それこそが本当の若さ、二度とないいまを生きている証しなんだと思います。

セミナーホールで語られた、校友会役員のスピーチが全校生徒をひきつけたのは、彼らのあふれる思い、情熱が校友会活動を越えて、在校生たちの共感を呼び起こしたからかもしれません。

３月初めには「沖縄」が待っています。この修学旅行で有終の美を飾り、中学校生活にもう一つ、思い出の「花」を添えましょう。

少し早いけれど、３年間本当にありがとう。

皇高 NEWS

のべ千人超が参加し大盛況

学校見学会

十一月十六日、本年度最終回となる三回目の学校見学会が開催され、県内各地から中学生、保護者、中学校教員合わせて約百五十名が参加。一回目から数えると一一〇四名の参加となり、昨年度を約八十名上回る盛況ぶりをみせた。

本年度は保護者の参加が多く、学校紹介を熱心に聞き入る様子が印象的で、アンケートの回答からは本校に対する興味や期待の高さが窺えた。吹奏楽部の歓迎コンサートは常に好評で、学校見学会の雰囲気を盛り上げると同時に、「明るい、楽しい、そして一生懸命」という本校のイメージ定着に大きな力となっていることに感謝したい。また、クラブ活動を見学する中学生も年々増加傾向にあり、午後からは各クラブの練習場所で保護者とともに見学する中学生の姿があちこちで見られた。

本年度は高等学校単独での開催であったが、来年度は、皇學館中学校と皇學館高校との合同開催日を設け、多くの方々に参加していただけるように計画中。今年度の学校見学会をさらにスケールアップしたイベントなどで、進学先に選ばれるような「オ・モ・テ・ナ・シ」ができるように企画したいと思っている。

入試広報部長　坂本昌也

職員の説明に熱心に耳を傾ける保護者と生徒

全力を出し切った大会

武道・バドミントン大会

終業式を五日後に控えた昨年十二月十九日、武道・バドミントン大会が行われた。卒業・期末考査試験後の解放感もあってか生徒はみなぎるエネルギーを大会にぶつけ、どの試合も白熱した戦いとなった。以下に生徒の感想を紹介する。

ハイレベルな試合に会場釘付け

総務委員長　城　貴斗

師走らしい気温の低さと雨のために凍えていたのは開会式の時だけで、第一試合が始まる時には既に両道場の窓は熱気に白く染まり、外の景色を眺めることさえできなくなっていた。否、たとえ窓が曇っていなくとも誰も外に顔を向ける者はいなかったであろう。目の前で行われている試合に釘付けになるからだ。

序盤は声援もあり賑やかなムードの中で試合が進められていった。しかし、上位になるにつれギャラリーは静かになり、もはや次元が違うと言えるほどに技が洗練されていた決勝戦は誰もが固唾をのみ、見ることに集中したためギャラリーの声は消えた。

来年も今年のようなハイレベルな試合ができるだろうか。先輩方の姿を目に焼き付け、来年の武道大会に向けて稽古を重ねることになるだろう。

気合いの入った掛け声が会場に響く

三年生の楽しむ姿が印象的

総務副委員長　大畑　綾音

寒さが厳しくなる中、三年生にとっては最後のスポーツ大会となるバドミントン大会が行われた。

体育の授業で練習を重ね、ようやくその成果が発揮できると、どの選手もやる気に満ちていた。緊張して、いつも通りのプレーができない選手もいる中、落ちついて楽しみながらプレーする三年生の姿がとても印象的だった。

このスポーツ大会を終えて、どんな状況でも自分の力を十分に発揮することの難しさを感じた。また、勝ち負けの前に正々堂々と戦うことの大切さを学ぶことができたのではないかと思う。

全力プレーで練習の成果を発揮

高中合同月次参拝　遷宮後初の神宮参拝

昨年十二月十七日に行われた神宮参拝は平成二十五年最後の参拝ということで各学年とも気の引き締まった様子で、玉砂利を静かに踏みしめながら列を乱すことなく参道を進んでいった。十月に遷御が執り行われたばかりの新しい御正殿は以前にもまして清々しく、とても美しかった。これまでに行われてきた「御木曳」や「御白石持ち」などさまざまな行事の集大成であると改めて感じた。遷宮後初の新しい御正殿での初参拝ということもあり一人ひとりがいつも以上に緊張していたが、そのためか、拍手、礼ともに揃っており、みんなの気持ちが一つになっていた。おそらく、三年生は無事に学校生活を過ごせたことへの感謝を、来年受験を迎える二年生は目標達成への決意を、一年生は慣れによって生じる気の緩みを引き締めたのだろう。生徒全員が志を立て、それを再確認できた良い機会となった。

三年八組　山口　嵐

厳かな雰囲気の中、参拝の列は静かに進んだ

皇中 NEWS

皇中祭で集めた募金を寄付

十二月十日、三年生の校友会本部役員四名が伊勢市福祉協議会に赴き、皇中祭で集めた「赤い羽根共同募金」への寄付金一万七六七三円を手渡した。

皇中祭では毎年、同役員が皇中祭実行委員会の中心メンバーとなって赤い羽根共同募金への協力を呼びかけ、あわせて花の販売を行っている。共同募金活動は地域福祉への協力を目的に行っており、今年は前述の通り伊勢市福祉協議会へ寄付。一方、その年々で贈呈先を決めている花販売は今回二万六二〇〇円を売り上げ、生徒たちは東日本大震災義捐金として寄付することを決めた。

自分たちが活動して集めたお金を自分たちの手で寄付することで、社会貢献の大切さや助け合う気持ちを感じたようであった。

伊勢市福祉協議会の応接室にて

七名が新校友会役員に

十二月十一日の立会演説会・選挙を経て新たな校友会本部役員が誕生した。七名の抱負を掲げる。

総務委員長

二年A組　志村　日向

僕の目標は「何事にも負けない強い意志を持つ」です。どんな壁にぶつかっても負けず、前に進んでいきたいと思います。前年度の経験を活かし、この一年間でさらに素晴らしい皇學館中学校を七名で力を合わせて作っていきたいです。

総務副委員長

二年A組　奥田　七海

今年度、私は庶務委員としても連合陸上や皇中祭などさまざまな活動を旧校友会本部役員と共にしました。七名で皇學館中学校を盛り上げ、この学校がより良いものになるように、精一杯後悔しないように頑張っていきたいです。

意気込みを語る新役員たち

総務副委員長

一年A組　西川　勉

僕は初めて生徒の代表となる立場につきました。どんな時でも仕事を着々と行い、誰もが興味や関心を持てる校友会活動をしていきたいです。そのために仲間と協力して実現出来るよう努力します。

書記

一年B組　田中　玲美

私はみんなの笑顔を見ることが大好きです。その笑顔を毎日見るためにはさまざまな活動に積極的に取り組むことが大切だと思います。七名で協力し、楽しいと思える日々を作っていきたいです。

書記

一年B組　松田　ひな子

私が校友会役員になった理由は、行事の度に、先輩達がみんなに楽しんでもらおうと積極的に活動している姿に憧れたからです。私もいろいろな行事を盛り上げ、みんなが皇學館中学校は楽しいと思ってもらえるよう頑張ります。

会計

一年A組　中川　直也

僕の目標は皇學館中学校を元気で笑顔あふれる学校にしていくことです。僕はこの目標のためにいつでもみんなに笑顔であいさつします。そしてこの七名で笑顔が絶えない一年にしていきたいです。

会計

一年B組　奥出　陸

僕には貫き通したいことが二つあります。一つ目は何事にもためらわずに取り組むこと。二つ目は必ず最後には完璧な形へ持っていくことです。この二つを貫き通し最高の一年間にしていきたいです。

二年奥浦大貴君の作文が最優秀賞

全国中学生人権作文コンテスト

全国中学生人権作文コンテスト三重県大会で最優秀賞を受賞したと聞いた時は、本当に驚きました。作文で賞をもらうのは初めてで、信じられない思いでした。その数日後、中央大会でも法務省人権擁護局長賞を受賞したと知らせがありました。僕は嬉しくて、お母さんや先生もとても喜んでくれました。受賞の記念にもらったピカピカのクリスタルのトロフィーは僕の宝物になりました。

いじめをテーマに書いた僕の作文は、小学校での体験が基になっています。僕の思いをありのままに、正直に書いたことがきっと心に響き、良い評価をもらえたのだと思います。これからも受賞できるように頑張りたいです。

賞状と楯を手に、喜びを語る奥浦君

岡田重精元理事長「偲ぶ会」に百余名

平成二十五年八月十一日に九十三歳で帰幽された学校法人皇學館元理事長・本学名誉教授の岡田重精氏を偲ぶ会が十一月十六日、伊勢シティホテル天平の間で行われ、神社関係者や学校関係者など百余名が参加した。

「偲ぶ会」には、大学や神社関係者、学友、教え子、夫人のご関係の方々など百余名が参加した。はじめに、教え子でこの会の発起人代表を務めた本名孝至伊弉諾神宮宮司から岡田氏の御遺徳を偲び、感謝の誠をささげた。

原田敏丸大阪大学名誉教授ほか遠来の研究者仲間や教え子たちから懐かしい思い出や感謝の言葉が語られ、最後にご遺族を代表して夫人の岡田照子様からご挨拶を頂き、和やかなうちに散会した。

いという開催の趣旨が述べられ、佐古一洌理事長（偲びの辞は別掲）、高野山真言宗管長松永有慶氏、伊勢国際宗教フォーラム代表河野訓氏から偲ぶ言葉が述べられた。歓談の中、清水潔学長をはじめ鈴木健一伊勢市長、

岡田氏は昭和十八年、神宮皇學館大學附属専門部を卒業。その後、東北帝国大学法文学部で宗教学を学び、東北大学での勤務を経て、昭和四十一年に皇學館女子短期大学助教授に就任した。昭和五十年、本学教授に就任後は宗教学を教える傍ら神道研究所長・学生部長・文学部長・神道学科主任などを併任され、平成十年より学校法人皇學館理事長を務められるなど本学の発展に尽力してこられた。北京大学やハワイ大学で招聘講義を行うなど海外でもご活躍され、旺盛な研究意欲のもと日本宗教学会理事を務め学界の重鎮としても学界をリード。神社本庁教学顧問や伊勢国際宗教フォーラム初代代表も務められるなど、斯界に果たされた岡田氏の功績は言をまたない。

略歴

昭和18年　神宮皇學館大學附属専門部卒業
昭和21年　東北帝国大学法文学部に入学
昭和24年　東北帝国大学卒業後、同大学助手として奉職
昭和29年　東北大学文学部東北文化研究室研究員
昭和41年　皇學館女子短期大学助教授
昭和46年　皇學館短期大学教授
昭和50年　皇學館大学教授に就任し宗教学を講じた。その後神道研究所長・学生部長・文学部長・神道学科主任等併任。北京大学・ハワイ大学ほか海外招聘講義多数
平成2年　文学博士
平成5年　皇學館大学定年退職。皇學館大学名誉教授
平成10年　学校法人皇學館理事長・顧問
その他神社本庁教学顧問・伊勢国際宗教フォーラム初代代表などを歴任

著書に『古代の斎忌（イミ）―日本人の基層信仰』、『斎忌の世界―その機構と変容』、『宗教学概説』、『日本のカミ（神）―原初・古代と現代―』など

偲びの辞

本日は岡田重精先生を「偲ぶ会」に、それぞれご出席を賜り誠にご苦労様でございます。

岡田先生は戦前神宮皇學館のご出身で、戦後の混乱期を経て再興なった我母館の為、並々ならぬご尽力を頂戴致しました。

特に教授として更に本学の理事長としても、大きなご功績を残されました事は皆様既にご承知の通りで、誠に有難く景仰この上ない次第です。

私事になり恐縮ですが、私が学生時代、先生は東北大学より母校皇學館にお帰りになられた間もない頃であったかと記憶しますが、一度お宅に招かれ夕食のご馳走に預かり酒を頂戴しながら、学問の事、母館の事をいろいろと拝聴し、大いに啓発させていただきました。そして大学教授・師たる者は、若者に対し、教え子に対し自ら胸襟を開いて接し導くことの大切さを教えられた思いが致しました。

先生のお人柄は「温厚篤実」の一言につきるかと存じます。

そのご鴻恩に接し得ましたことは、身にあまる光栄と只管感謝致して止みません。

御齢九十三才でありましたが、まだまだ幾久しくご指導を賜り度き思い切なるものでありますが、かくなる上は先生の御霊の安らかならん事を心よりお祈り申し上げ、発起人の一人としてのご挨拶とさせていただきます。

平成二十五年十一月十六日

学校法人皇學館理事長
佐古　一洌

任命状に決意の表情

第53期学友会が発足

昨年十二月十二日、本部大会議室において第五十三期学友会総務部の任命式が執り行われた。同会の新役員には計八名の学生が就任。清水潔学長より任命状が手渡されると顔を引き締め、その責任の重みをしっかりと受け止めていた。以下に総務委員長、総務副委員長の抱負を紹介する。

任命状を手に、やる気に満ちた凛々しい表情の役員たち

大学生活充実に一役

総務委員長　桑原和瑳

我々学友会総務部は学生と教職員、学生同士、学生と大学を結ぶ架け橋であり、行事の企画・運営の担い手であります。昨今ではユネスコの「無形文化財」に「和食・日本人の伝統的な食文化」が登録されました。これは日本の大きなマネージメントポイントであり、自己の価値を示す良き例だと思います。

清水学長より任命状を授与される桑原君

学友会総務部は主に裏方の仕事であり、未だ学内での知名度が低い状況下にあります。そこで重要となるのがマーケティングであると考えます。学生が真に求める企画や行事、ニーズを把握し、その情報を届け、学生がその企画、行事、ニーズを効果的に与えられることであります。正しい情報とニーズに応えることによって信頼を得ることができ、さらには知名度も自然に高められると考えております。

しかしあくまでも企画や行事の存在目的は学生生活を充実させることであり、充実させる為の一つのきっかけです。そのきっかけ作りに少しでも役に立てればと思い、皆様の期待に応えるべく精進していきたいと思いますので、よろしくお願いします。

要望や意見が活動の原動力

総務副委員長　吉川里緒奈

伝統ある皇學館大学の総務副委員長に就任させていただいたことは皆様の私への期待だと感じました。そのための責任の大きさを感じるとともに、自らの日ごろの行動に責任を持ちたいと思います。

学生生活を充実させるためには、ひとつのことをやり通す「強い気持ち」と「皆様の協力」が必要です。学友会の一部の意見ではよりよい大学は決してできません。皆様の貴重な意見や要望が学友会の貴重な源となります。学友会からのアンケートにはぜひ積極的に回答していただきたいと思います。丁寧に皆様からの意見を受け止め、話し合いをしていくことを約束します。アンケート以外にも意見がありましたら気軽に学友会へ伝えてほしいです。

この一年間、学生の皆様と共に歩み、成長していきます。総務委員長をはじめ、学友会委員ともにより一層皆様の力になります。よりよい大学生活充実のためにご協力と応援をよろしくお願いします。

総務委員長	桑原　和瑳
総務副委員長	吉川　里緒奈
会計委員	羽佐間　一輝
庶務委員	石井　澄明
	行友　浩司
	金子　大介
	三好　瑛子
	鈴井　創支

神道学科2年	
国文学科1年	
コミュニケーション学科2年	
神道学科2年	
神道学科2年	
国史学科2年	
コミュニケーション学科2年	
国文学科1年	

「皇居勤労奉仕の歴史に恥じぬ」

皇居勤労奉仕団・結団式

三月十日から十三日にかけて、学生有志四十七名が皇居勤労奉仕を行う。その結団式が二月四日に開催された。

式の冒頭、団長を務める国史学科二年の高里智佳さんは「皇居勤労奉仕の歴史に、皇學館大学の名に恥じぬよう、奉仕学生一同、誠心誠意ご奉仕して参ります」と宣言。特に〈皇居勤労奉仕の歴史に恥じぬ〉という部分について、「戦後、空襲で荒廃したままであった皇居の清掃をしたいと、宮城県の有志が集まり始まったのが皇居勤労奉仕だと清水学長がお話してくださった。私は、皇居勤労奉仕をすること、そして団長として皇學館を代表することの重みを感じ、気持ちを固めるために、急遽この言葉を付け加えました」と高里さんは語り、「奉仕学生も同じ思いであることを信じ、精一杯ご奉仕したい」と意気込みを話した。

三重県農業大学校と連携協定を締結

農業を通して地域課題の解決に挑む人材を養成

農業を通じて地域の活性化に貢献できる人材を育成しようと、本学は三重県松阪市の三重県農業大学校と教育研究交流を目的とする連携協定を締結した。平成二十六年度より全学部の学生対象に文科系農業関連人材養成を視野に入れた新科目を導入する。

中核的職業人養成に向け意思を確認した清水学長と杉谷校長

農業の課題は日本の課題

日本は古来より「豊葦原の瑞穂の国」と称され、稲作を中心とする独自の農業文化を築いてきた。しかし今日、自由貿易協定（FTA）や経済連携協定（EPA）が締結され、さらに環太平洋戦略的経済連携協定（TPP）の交渉が進む中、農業は国際競争力のある高付加価値産業への転換や第六次産業化への取組みが求められている。しかし国内では就業人口の減少による後継者不足、耕作放棄地の増加などの多くの問題を抱え、農業人材の育成は日本の喫緊の課題となっている。

人文学の視点で農業に挑む

このような厳しい環境だからこそ、五穀豊穣という自然の恵みに感謝する心の教育に取り組んできた本学が、農業を通して地域の活性化に貢献する人材育成を行うことに意味がある。

昨年十二月二十四日の締結式には清水潔学長と同大学校の杉谷三朗校長が出席。清水学長は「人文学の視点で農業に挑戦し、新しい可能性を探ることで、地域の発展にも貢献できる」と語った。また人文学系の学校との提携は初となる同大学校の杉谷校長も「農業の担い手の幅を広げる大きな可能性を感じる」と期待を述べた。

能動的学修の積極的推進

今後は講義や実習、共同研究などを通して双方の学生および教員の交流を図る。第一弾として、平成二十六年度からの新カリキュラムでは、本学の全学部の学生を対象とする「作物栽培学講義」と「作物栽培学実習」を開講予定。農業大学校で食の安全や農作物の基礎、野菜や花卉（かき）（観賞用の植物）、果樹の管理技術などを学んだ上で、パンジー、ブロッコリー、キャベツを実際に栽培する。本学では、中核的職業人養成への取組みを強化し、学生の多様な進路実現と地域課題の解決に向けた人材養成をめざしていく。また本学からも同大学校へ講師を派遣し、教職員の研修や学生を対象とする特別授業などを行う予定。

前田ゼミ作品が全国三位

NHK全国大学放送コンテスト　海女の密着ドキュメント

文学部コミュニケーション学科前田至剛ゼミのメンバー四人が制作したドキュメント「海女として生きる」が第三十回NHK全国大学放送コンテストにおいて映像番組部門第三位入賞を果たした。同コンテストには毎年百を超える大学所属団体が応募し、作品総数は六百本近くに及ぶ。前田ゼミは前回も同じく三位に入賞している。

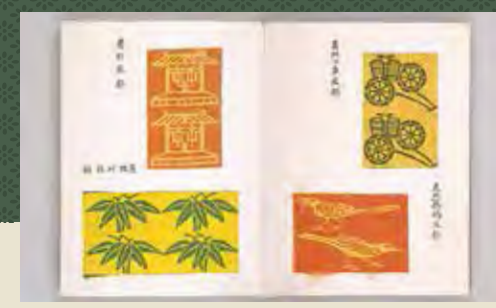
今回入賞したのは鳥羽市相差町で海女業を営むコミュニケーション学科四年の中川静香さんを取り上げた六分間のドキュメンタリー作品。海女といえば、昨年は「あまちゃん」ブームで全国的に注目を集め、中川さんもすでに多数のメディアで紹介されていた。そのため、制作した学生にとっては慣れない取材・撮影作業もさることながら、「いかにプロによる既存の作品と差異化するか」が課題だったという。そこで彼らは素顔の中川さんを捉えようと、海に潜っていない時の普段の生活に密着。大学や彼女の自宅、相差町の海岸などで収録を行った。制作チームのメンバーである、コミュニケーション学科四年の早川恭平君は「中川さんは観光海女ではなく商業海女。実際に漁をして生活の糧を得ているので職業意識が強く、全国で唯一の三世代海女という被写体としての魅力がもともとある」と分析する。その上で、「中川さんが生まれ育った町やお母さん、お祖母さんと一緒に取材・撮影したことで、海女として生きる道を彼女が自然と選んだことがわかるし、『海女になって地域に貢献したい』という言葉もすんなり心に響く。それでいて、彼女はどこにでもいるようなおしゃれに興味を持つ普通の女子大生。そうした素の暮らしぶり、格好つけたり背伸びした発言を一切しない彼女の〝自然体〟こそいちばん伝えたかった」と話す。

卒業後はサービス業に就くことが決まっている早川君。作品制作の過程でメンバー同士が密にコミュニケーションをとる必要性を痛感したそうで、「一人だけでする仕事はないと思う。考え方や意見が違ったときは今回学んだことを活かしてディスカッションを深めたい」と力強く語った。

賞状を手に喜ぶメンバー。「後輩たちはさらに上位をめざして」と話す

皇學館ミュージアム

神宮式年遷宮 御装束裂帖（おんしょうぞくれっちょう）　一帖



折本　縦24センチ、横18センチ（昭和4年）

神事にまつわる文様と織りの見本帖

昭和四年（一九二九）、第五十七回神宮式年遷宮時に調進（ちょうしん）された御装束神宝（おんしょうぞくしんぼう）の代表的な裂地（きれじ）類の一部を折り本仕立てで貼り纏めたものです。表面（おもてめん）には、黄地小車紋錦（きじおぐるまもんにしき）、赤地鶺鴒紋錦（じせきれいもんにしき）、屋形紋錦（やかた）、黄地竹紋錦など十七種が、裏面には緋大葵（ひおおあおい）紋唐綾（からあや）、紺小葵紋綾（こあおい）、緋小葵紋固練綾（かたあおり）、緑小葵紋固織練綾（ねりあや）など十二種の裂地が貼りあわされ、墨書で文様と織りの名称が記されています。裂地はいわゆる織出し見本とも称すべきもので、裂の大きさはまちまちです。このような見本帖は布帛本様（ふはくほんよう）とも称され、後世の規範に供する目的で製作されたものと考えられます。本学には明治二十三年（一八九〇）七月、御巫清直（みかなぎきよなお）により製作された御装束神宝用錦織裁裂帖一冊も所蔵されています。

佐川記念神道博物館教授・学芸員　岡田芳幸

イベント情報（3月）

3月

8土 皇學館大学共催講座　近鉄文化サロン阿倍野
『古事記』を読む（中巻）「応神天皇（四）」
白山芳太郎（文学部教授）

伊勢の遷宮を考える
－1日の祭り1年の祭り20年1度の祭り－
「神宮の鎮座」白山芳太郎（文学部教授）

15土 皇學館大学共催講座　近鉄文化サロン阿倍野
特別公開講座
万葉の歌人 －但馬皇女と穂積皇子－
大島信生（文学部教授）

22土 皇學館大学共催講座　近鉄文化サロン阿倍野
神道と仏教 －神社仏閣に見る神仏習合と神仏分離－
「こんぴらさんにおける神仏習合と神仏分離」
河野訓（文学部教授）

- 各講座の詳細につきましては、本学ホームページにてご確認いただきますようお願い致します。
- 共催講座（近鉄文化サロン阿倍野）のみ、有料です。お問い合わせは近鉄文化サロン阿倍野（☎ 0120-106-718）へお願い致します。
- その他、お問い合わせは、皇學館大学企画部（0596-22-6496）へお願い致します。

卒業式のご案内

皇學館中学校卒業式
3月15日（土）　10時～
皇學館中学校セミナーホール

皇學館高校卒業式
3月1日（土）　10時30分～
皇學館大学記念講堂

皇學館大学学位記・修了証書授与式
3月18日（火）　11時30分～
皇學館大学記念講堂

祝賀会（総合体育館メインアリーナ）
14時～15時30分

※卒業生のご家族の皆様もご参加いただけます。ぜひお越しください。

教育学部4年生有志による卒業記念ミュージカル

おもちゃ箱の大冒険！
～もうひとつのトイ・ストーリー～

予約不要　入場無料

大好評のミュージカルショーが今年も開催されます。おもちゃ箱を舞台に繰り広げられる学生オリジナルのストーリー。お楽しみに！！

2月22日（土）・23日（日）
伊勢公演
皇學館大学記念講堂
開場／13時
開演／13時30分～

3月2日（日）
津公演
三重県総合文化センター
中ホール
開場／13時30分
開演／14時～

僕たちが会場で待っています。ぜひ観に来てね！

※津公演について、定員を超えた場合はロビーのモニターにてご観覧いただけます。

問合せ　皇學館大学教育学科研究室　0596・22・6458

編集後記

就職内定者VOICEでは、「課外活動で出会ったまちづくり担当の県職員に憧れて公務員を志望した」「教員志望だったが、子どもの安全を守ることも教育と同じくらい大切と気付き警察官をめざした」「教育実習を経験し教師になることを確信した」など、大学四年間の授業や実習、クラブ・サークル、課外活動を通じて将来の進路を模索し、自分のやりたい仕事を見つけることができた様子がうかがえます。来年四月からは、学生一人ひとりの希望の就職を実現する新しい取組み、「キャリア・コンパス・プログラム」も始まります。ご期待下さい。〔企画部〕